

自己評価シート【緑が丘児童館】

1、福祉サービスの基本方針と組織

1－1 理念・基本方針

1－1－（１） 理念、基本方針が明文化（児童館内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等））され周知が図られている。	
【判断基準】 (a) 児童館の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、利用者等への周知が図られている。 (b) 児童館の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。 (c) 児童館の理念、基本方針の明文化や職員、利用者等への周知がされていない。	
【自己評価】	実践例（取組や記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	児童館パンフレットをリニューアルし、児童館の理念、基本方針を明文化し、来館者に配布している。地域懇談会での資料に児童館の理念、基本方針について記載し、丁寧に説明し周知している。また、地域の会議の中でも、年度当初に伝えている。
1－1－（２） 理念、基本方針の確立・周知について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
次年度の事業を計画する際には必ず事業を振り返った上で、事業の方向性を確認している。 地域懇談会や地域の会議の中でも、主任児童委員や青少年委員、住区住民会議の会長、青少年部など、地域の方々に周知し共有することができた。	児童館パンフレットをリニューアルし配布することで周知をしてきた。今後も広報媒体を的確に利用し、理念や基本方針を踏まえた発信をしていけるよう心がけていく。

2、児童館の活動に関する事項

2－1 児童館の理念・目的及び施設特性

2－1－（１） 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。	
【判断基準】 (a) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいる。 (b) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理念や基本方針等に盛り込んでいるが、十分ではない。 (c) 児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の理念と目的を、自館の基本理	

念や基本方針等に盛り込んでいない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	年間計画を作成する上で、児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針の内容を、自館の基本理念や基本方針に盛り込んでいる。行事や子ども会議だけではなく、日常の活動から子どもの意見を尊重し、子どもたちの思いを表現できるように支援することを目標にしている。「ようこそ1年生」や「カンガるんるんまつり」など、子どもたち、保護者、地域の方々と繋がる機会を設けていくことで、児童館が地域のコミュニティの拠点となれるよう、事業を実施している。
2-1-(2)	
児童館ガイドライン、目黒区児童館運営指針に示された児童館の施設特性を発揮している。	
【判断基準】	
(a) 児童館の施設特性を発揮している。	
(b) 児童館の施設特性を発揮しているが、十分ではない。	
(c) 児童館の施設特性を発揮していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	「大型館多住区対応」という特徴を活かし、専用の車で移動児童館、出張児童館を実施している。宮前地域には「ゲームであそぼう」「木曜工作ランド」の移動児童館を実施している。中根地域には、小学校内で「出張工作」と「コマ・けん玉にチャレンジしよう」を実施し、住区センターで「ゲームであそぼう」の出張児童館を実施し、児童館のない地域に子どもたちの放課後の居場所を作っている。みどりがおかこども園や近隣保育園にも木工作や出張工作を実施している。地域行事にも積極的に参加し、地域に頼られる存在になっている。自館でも0歳～18歳未満までの子どもたちが居心地のよい場所になるよう、職員は子どもに寄り添い、丁寧に関わるよう心がけている。
2-1-(3)	
子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
【判断基準】	
(a) 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	
(b) -	
(c) 子どもの権利擁護に関する取組が十分ではない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	定期的に、おしゃべりミーティング（子ども会議）を実施し、その中で、目黒区子ども条例の話をし、子どもの権利があることを伝えている。 職員は普段から子どもたちと関わることで、困った時に話ができる関係を築いていけるよう努力している。また、子どもが自分の意見を言える機会や言いやすい雰囲気を作るように心がけ、子どもたちのやりたいことを実現できるよう

	にしている。子ども同士のトラブル等についても、職員はお互いの子どもたちの言い分を聞き、お互いが納得できるように、丁寧な話し合いの中で解決を図るように心がけている。
2-1-(4) 児童館の理念・目的及び施設特性について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点
行事やその行事に向けた取り組み、各部屋での遊びなど、色々な体験を通して子どもたち同士を繋げ、健やかに育っていけるように運営している。 また、児童館のない地域に「移動児童館・出張児童館」を実施したり、地域行事に参加協力することで、地域の需要に応えている。	「自分の気持ちを伝えること」「相手の気持ちを受けとめること」「お互いの意見を調整すること」がうまくできていない為、児童館でも積み重ねていく必要がある。行事や日常活動の中で、子どもたちの成長、発達についても意識して働きかけていく。

2-2 遊びによる子どもの育成

2-2-(1) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。	
【判断基準】 (a) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っている。 (b) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解し、一人ひとりの心身の状態を把握して子どもの育成を行っているが、十分ではない。 (c) 子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、☐ b)、☐ c)	日々、朝会、昼会の2回、児童館・学童保育クラブ合同の打ち合わせを行い、子どもの気になる様子や成長が見られた様子など、職員間で共有し、様々な角度から子どもの思いを考え、声掛けの仕方や支援の方向性を統一するようにしている。 子どもの特徴を捉え、一人ひとりが楽しめる遊びを提供するとともに、仲間と一緒に遊ぶ楽しさも伝えていくように心がけている。
2-2-(2) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。	
【判断基準】 (a) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしている。 (b) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしているが、十分ではない。	

(c) 子どもが自ら遊びを作り出したり遊びを選択したりできるようにしていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	各部屋で、子どもの主体性を大切にし、子どもたちがやりたい遊びを最大限できるように心がけている。プレイルームでは遊びに来ているメンバーや状況を踏まえて、臨機応変にあそびのスペースを分けたり、一つの遊びをみんなで楽しんだり、集まった仲間で遊びを決めて遊んでいる。図工室では自由に使える材料を豊富に用意し、子どもの発想を大切にし、子どもたちが作りたい物が作れる環境を整えている。今の子どもたちの状況を踏まえつつ、子どもたちの意思を可能な限り尊重するように心がけている。
2-2-(3)	
子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
【判断基準】	
(a) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助している。	
(b) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるように援助しているが、十分ではない。	
(c) 子ども同士が同年齢や異年齢の集団を形成して、様々な活動に自発的に取り組めるような援助を行っていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	緑ヶ丘小だけではなく、中根小、宮前小、その他の公立小や私立・国立小、他区の子どもたちなどが集い、異年齢の交流は日常的にできている。 おしゃべりミーティング（子ども会議）や意見 BOX で、児童館でやりたいことについて意見を募り、その意見を実現できるように取り組んでいる。中高生についても、来館時に意見を聞きながら、中高生自主活動として実現できるようにしている。 幼児についても、プレイルームや音楽室、図工室では小学生と一緒に遊べる空間をすることで、異年齢間の交流ができている。 コロナ禍で異年齢間の交流がなかなかできなかった分、行事や遊びを元に戻していく中で、異年齢の関わりが持てるよう心がけている。様々な活動を通して子ども同士で遊びや遊びのルールを考えたり、自主的、自発的に取り組んでいけるよう、働きかけている。
2-2-(4)	
遊びによる子どもの育成について	
良いと思う点	改善が必要だと思う点

職員として、多くの子どもたちと積極的に関わるように心がけている。子どもの気になる様子や子どもの成長した様子は、朝会・昼会で報告したり、日誌に記載したり、職員間で共有するようにしている。子どもたちが自由にやりたい遊びができたり、子どもたちが自ら行事やイベントを企画できる仕組みがあったり、自主性や主体性を伸ばす機会にもなっている。	職員の経験年数やスキルの違いがあるため、子どもへの声かけや指導・支援の仕方が異なってしまうことも多少ある。部屋対応についてはなるべく複数で対応することでお互いの技術を学ぶことができるが、職員の体制上、難しい面がある。職場内 OJT もやりきれていないことが課題である。
--	--

2-3 児童館の安全管理

2-3-(1)	
緊急時（事故、感染症の発生時など）の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全確保のために、体制が整備され機能している。 (b) 利用者の安全確保のために、体制が整備されているが、十分に機能していない。 (c) 利用者の安全確保のために、体制が整備されていない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	「災害時初期対応マニュアル」「危機管理・安全対策マニュアル」に基づき、月1回避難訓練を実施している。避難訓練は地震、火災、防犯など様々な状況を想定して実施しており、有事の際に適切な対応ができるように備えている。消防署には年2回、警察署には年1回連携を取り、専門的立場の方から子どもたちに話をしてもらう場を作ることで、子どもたちの意識も高まっている。 ヒヤリハット事例の共有化、怪我や事故後の再発防止策の徹底を行うことで、各職員がシミュレーションした上で、対応できるよう心がけている。
2-3-(2)	
利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	
【判断基準】 (a) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要員分析と対応策の検討を行い実行している。 (b) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要員分析と対応策の検討が十分でない。 (c) 利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
【自己評価】	実践例（取り組みや記録等）
☒ a)、 ☐ b)、 ☐ c)	毎日の各部屋の施設点検を実施し、日常的に施設の安全点検を意識し、子どもたちが安全に利用できるよう心がけている。遊具や道具の整理整頓、子どもの動線を考慮したレイアウトを常に意識するなど、各部屋の担当職員が環境整備をし、全体で共有している。子どもの様子から危ないと思われる行為や遊具の使い方についても、職員間で確認し、対応を統一している。